



# 加納高だより

No.189

令和 8 年 1 月 30 日

発行 岐阜県立加納高等学校

PTA会長 佐藤 義人

校長 高橋 宗彦

企画・編集 総務部

## 110周年記念事業を終えて ～私にとって加納高校とは～



### 「景色が変わった秋」

前期生徒会長 小島 嘉仁

高校生活の転機は2年生の秋でした。生徒会に入り、自分がこの学校を動かす一員なのだと気がつき、景色が変わった気がしました。同じ教室のいつもの席が、前より自分の居場所なのだと思えました。この3年間で、得たものもあれば、失ったものもあります。でもこの経験が、当たり前だと思っていた学校生活が、特別なものであるということを感じさせてくれました。このような意味で加納高校は私にとってかけがえのない空間であったと思います。

### 「新しい景色」

後期生徒会長 山本 泰地

僕にとって、加納高校は第2の家族のような存在です。目指す道はそれぞれ違うけれど、志の高い仲間たちに囲まれ、日々切磋琢磨できる環境です。そんな本校の生徒会長を務められることを、心より誇りに思っています。服装の自由化やスマートフォンの利用規程の変更が行われた今、自主性と個性を兼ね備えた皆さんを、生徒会を通して支えていきたいです。皆さんでより良い加納高校を作っていきましょう。



### CONTENTS

- 110周年記念式典
- 白梅祭
- 2年音楽科 校外研修
- スポーツ大会
- 芸術鑑賞会
- 美術科卒業制作展
- 音楽科卒業演奏会

# 白梅祭

9/4(木)・8月



## 文化祭推進委員長 石森 龍大

今年の白梅祭のスローガンは「彩響(さいきょう)の交差点(スクランブル)」でした。普通科・音楽科・美術科の3科が交差する、思い出を彩り心に響く白梅祭を目指し立てられたスローガンです。

今年は白梅祭のPRにInstagramを活用したり、全校企画でFormsを使ったクイズを作成したりと新たな取り組みを行いました。クラスの出し物でも、お化け屋敷にシューティング要素を加えたアトラクションや、音程バーが表示されるリアルなカラオケなど、ひと工夫された新鮮な出し物が多い印象でした。

また、加納高校創立110周年ということで、各クラスに「110」や「加納」の要素を入れたポスターを作成してもらったほか、開会式ではマスコットキャラクターの「かのうくん」が登場するなど全校で110周年を祝福しました。

最後に、文化祭準備をする過程でお世話になった先生方や全校企画に協力してくれた全校の皆さん、ありがとうございました。皆さんのおかげで最高の白梅祭でした。



## 2年音楽科校外研修

10/8<sup>水</sup> 大阪音楽大学

### 2年音楽科 本多 由奈

今回の研修で特に印象に残ったのは、実技を中心とした専攻に加え、演奏会の企画・運営を学べるコースが設けられている点です。「演奏する人」と「企画・運営する人」が共存し、それぞれの得意分野を活かしながら演奏会を作り上げたり、地域と連携し音楽を通して社会に貢献する取り組みが行われていたり、単に演奏技術の向上だけでなく、人と繋がり、社会に音楽を届ける活動を支えている点が印象的でした。また、ミュージカル専攻のワークショップにも参加し、表現方法は異なっているにもかかわらず音楽を通して人の心に伝えるという本質は共通していると学びました。今回の研修は、音楽とどう向き合い、将来どのように発信していきたいのかを深く考える有意義な機会となりました。



## スポーツ大会

10/22<sup>水</sup>

### 「球技は専門外です」 2年美術科 炭竈 玲亜

今までに球技大会を4回、ミニ運動会も合わせたら6回運動系の大会を行いました。しかし、成績発表で「2年美術科」と呼ばれたことはありません。ほぼ元美術部が集まったクラスが、元運動部だけでなく現運動部が在籍しているクラスと試合をしても分かりきったことです。

ここまでで美術科がどれだけ運動できないかしか書いていませんが、球技大会が憂鬱になることくらい弱いとは思っていません。美術科の良い所は勝てないと感じても全力でプレーすること、そしてどれだけサーブが入らなくてもポジティブでいることだと思います。もし、美術科と試合をする機会があれば見てください。相手コートに返せた時はまるでリーグ優勝をしたかのような喜び方をしています。後期の球技大会では、美術科の3学年が学年を問わず応援をしに来てくれますし、他学年の美術科の先生が監督かのような顔をしてやってきます。

私はあと2回球技大会があります。理想はリーグ優勝ですが、「美術科もなかなかやるな」と思ってもらえるよう頑張ります。



## 芸術鑑賞会

10/29<sup>水</sup> 劇団四季「マンマ・ミーア」

### 2年6組 溝杭 明莉

ミュージカル「マンマ・ミーア」を観て、まず最初に表現力の高さに驚きました。2階席から見てもわかるくらいの表情管理や口の開き方、そして声にも感情がこもっていて、演技に引き込まれました。それ以外にも、特に自由自在に動く大道具の壁に感動しました。その壁1つだけで、ホテルの外、敷地内、部屋の中を表せて、道具を入れ替える手間を省く工夫がすごいと思いました。最後は歌って踊って、観客も一緒に盛り上がり楽しかったです。

来年の白梅祭では、3年生で劇を行います。今回のプロの方のような演技をしたり、道具を用意したりするのは厳しいけれど、観てくださっている方に気持ちが伝わるような表情や声の出し方の勉強になりました。今回鑑賞して分かったことを来年に生かし、観客と一緒に楽しんでできるようにしたいです。



# 美術科 卒業制作展

11/11<sup>火</sup>～16<sup>日</sup> 岐阜県美術館

## 「卒業制作展を終えて」

3年美術科 田中 寧々

2年生の夏の自由制作、プレ卒と物語をつなげて描いた作品にした。去年からある程度のビジョンや理想を持って卒業制作に力を入れることができて良かったと感じている。

もちろん自分の全力を出しきったつもりだけど、満足度が低かったので、今後の制作にこの悔しい気持ちを活かしたいと思った。

今回の卒業制作では、甲子園の実際の土を使って、本物の土ぼこりを表現したり、背景の観客と選手たちの見え方の差をうまく表現したりと、自分なりのひらめきと工夫がつまった作品にできたと思う。自画像では、嫌になるくらい自分の顔を見て、紙の限界まで描写することで、最高の1枚に仕上がったと思う。

制作期間では、日本画の仲間が必死に作品と向き合う姿や試行錯誤している姿が多くあって、自分のモチベーションアップにつながった。会期中の当番をしている時、丁寧に声をかけていただき、感想を言ってくださるお客さんや、応援のメッセージをくださる方もいてとても心が温まったし、やりがいを得られた。展示の準備や片付けでも、仲間の作業を積極的に手伝ったり、支え合ったりする姿が目立っていて、全員で行う展示のありがたみや大切さと改めて実感した。会場に寄せるお客さんの褒め言葉がまるで自分のことのように嬉しくて、仲間の作品が賞を取ったときもとても感動した。

この仲間と過ごせるのもあと少しだけど、高校3年間で締めくくる、最高のイベントだったと思う。



# 音楽科 卒業演奏会

12/26<sup>金</sup> サラマンカホール

3年音楽科 岩間 大地

加納高校創立110周年・音楽科創立70周年という節目の年に、卒業演奏会に出演できたことをとても嬉しく思います。そして、高校3年間の集大成を多くのお客様にみていただくことができ、最高の経験となりました。この3年間は思うような演奏ができず、悩むことも多くありました。しかし、高校生活で最後の本番である卒業演奏会では、自信を持って演奏に臨み、自分にしかできない音楽を皆様に届けることができました。3年間の集大成をサラマンカホールで披露することができ、音楽科に進んでよかったと心から感じました。私たち3年生は、この卒業演奏会で得た経験を糧にして、これからもそれぞれの音楽の道に邁進していきます。ご来場いただきました皆様、本当にありがとうございました。

